

## 春の叙勲

2011(平成23)年夏、中部経済産業局から、「2012年春の叙勲に推薦したいので、産業界での実績と功勞をできるだけたくさん報告してほしい」という連絡を受けた。私は常々社員に、「自分の自慢話をしてはいけない。君たちの評価は他人が決めることだ」と話している。このような考え方の私が、叙勲とはいえ、自分の手柄を記すことに大変抵抗を感じるとお伝えした。

「そこを何とかしてほしい」と言われると思ったが、全く違った答えが返ってきた。同局の担当者は、「そうですか。それではグッドカンパニー大賞を推薦します」と即答された。恥ずかしながら、グッドカンパニー大賞がい

伊藤製作所社長

## 伊藤 澄夫 43



写真館にて撮影(2017年5月6日)

かなる賞であるかを知らなかったの企業が傾けば全て自身の責任になる。で、ネットで調べてみた。すると驚いたことに1967(昭和42)年にスタートしたこの制度で、表彰を受けた三重の企業はわずか7社のみであった。中小企業の経営者は個人保証をし、

企業が傾けば全て自身の責任になる。従って、日々の経営は真剣勝負そのもので、全力で努力をすることは当然なことだ。叙勲は個人がいたたくことにならるが、それは多くの皆さまと社員の努力の賜物である。私個人がいたたくこ

## 墓参りで両親に報告

とは非常に引け目を感じるのだ。

しかし、グッドカンパニー大賞は優良な企業がいただけるものとして理解しており、私にとってはこれに上ない光栄なのだ。厳かな授与式に参加し、中小企業庁長官からあいさつをいただいたが、家族や秘書などお連れがいなかったのは私だけだった。

その後、2016(平成28)年

に産業局から再度の叙勲の推薦をいただき驚いた。2013(平成25)年に日本金型工業会の副会長を降りて以来、公職は何もなかったため、叙勲など夢にも思っていなかった。この年から公職に就いていなくても、全国の企業家から20人程度を推薦するという制度ができたようだ。銀行出身の北川総務部長は、「私が調べて全て報告書を作成するので、ぜひいただいてほしい」と言い、10日間で書類を作成してくれた。皇居で天皇陛下からあいさつをいただいた時は、日本人に生まれて本当に幸せであることを実感した。翌日の墓参りで、両親に報告した。知人は自分のことのように喜んでくれて、8月3日に名古屋のホテルでお祝い会を開いてくれた。この会にはジャーナリストの櫻井よしこ氏にも参加いただいた。